

■ 複数の障害教育部門を併置する学校の開校に向けて(開設準備)

複数の障害教育部門を併置する学校の開校に向けては、開校前から、対象となる都立特別支援学校の児童・生徒や教員同士の交流の機会を設けるなど、段階的・計画的に準備を進めることが大切です。ここでは、平成26年4月開校の「鹿本学園」の実践から、開校に向けた準備の様子を紹介します。



各部門の専門性の明確化と活用

鹿本学園の実践から

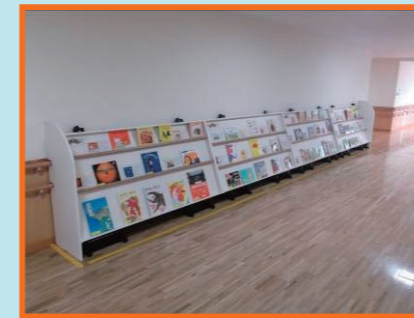
★ ポイント ★

両部門の有する専門性を活用した指導の充実と施設・設備の相互利用等、併置化のメリットを最大限に生かすプランニングが大切です。

各部門の有する専門性の共有と施設・設備の相互利用

① 相互理解研修の実施

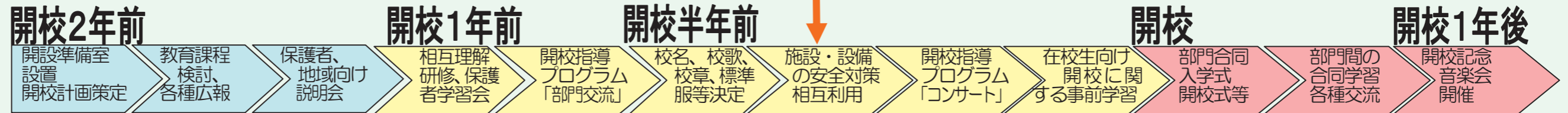
- ・ 肢体不自由教育部門の教員 ⇒ 知的障害教育部門の教員
【共有例】 摂食指導や姿勢保持・歩行指導について
- ・ 知的障害教育部門の教員 ⇒ 肢体不自由教育部門の教員
【共有例】 知的障害や発達障害を併せ有する児童・生徒の指導の工夫



② 施設・設備の有効活用の実践

- ・ オープンライブラリの相互利用
車いすの児童・生徒が利用しやすいように設置した開架式図書室の相互利用
- ・ スヌーズレン設備の相互利用
光や音などを利用したトータルリラクゼーション設備の相互利用

開校準備 スケジュール



児童・生徒、保護者、教職員等学校に関わる人々の融合

- ① 開校指導プログラムの実施
プレ開校期間(開校前年度)における交流(例)
・ 肢体不自由教育部門から知的障害教育部門へのアプローチ
生徒会役員による「鹿本キャラバン隊」(行事への招待)の実施
・ 知的障害教育部門から肢体不自由教育部門へのアプローチ(例)
花壇等の施設を前年度から利用することで場に慣れ、見通しをもてるように工夫し、円滑な移行を実現
- ② 教職員向け説明会、保護者向け説明会の両部門合同開催
・ 開校前年度から、新学園のコンセプトや情報を共有し学園としての一体感を醸成



新学園に関わる関係者の融合

魅力的な学校づくり

併置化のメリットを最大限に活かせる魅力的な教育課程の編成



- ① 部門間の専門性を担保した上での合同学習
・ 作業学習における合同学習(例)
知的障害教育部門の生徒が栽培した草花と肢体不自由部門の生徒が作製したプランターを組み合わせ、両部門の生徒が一緒に交流校へ届ける。
- ② 行事を通じた部門間交流と同世代間交流
・ 儀式的行事の合同実施
部門別入学式・卒業式から、両部門合同学部別入学式・卒業式の実施へ
・ 同世代間交流を意識した行事の実施
小学部開校記念仲よしコンサート、中・高等部開校記念音楽鑑賞会

両校の先生方が理解を深め合い、児童・生徒や保護者に「安心」してもらうことが大切です。

報告書を活用した研修の提案

部門間連携(学校間連携)の活性化に向けた研修

異なる専門性や資源を最大限に活用し、「なるほど」と教員が笑顔になろう。

ねらいと概要

- ・障害が重複する児童・生徒への指導の充実
 - ・教員の専門性の向上
- ①部門間の指導方法や他の障害への理解が深まる。
 - ②部門間の児童・生徒、教員間の交流が活発化する。

準備等

- ・本報告書
- ・特別支援学校学習指導要領
- ・教師一人一人の専門性を高めるために(平成25年3月)
- ・研修会の実施単位は、全校、部門別、学部合同等

研修プログラム

step

1

特色のある実践事例からの学び

- 本報告書及び「教師一人一人の専門性を高めるために」(平成25年3月)の中から、「すぐに役立つ」「気にかかる」事例を選び出す。
- 選び出した事例を基に、部門間や学校間の連携のポイントや効果をワークシートに整理する。

step

2

事例研究①(部門別協議)

- 学級や学部在籍する、障害が重複する児童・生徒の事例を抽出する。
 - ・障害の状態の共通理解
 - ・連携のポイントの明確化(他部門からの支援に期待すること)

step

3

事例研究②(部門合同の全体協議)

- 課題解決と連携の方法に向けての情報共有。
 - ・個人やグループごとに発表を行う。
 - ・発表を基に、連携を深めるための具体的方策や課題を話し合う。
 - ・課題解決に向けた連携方法(いつ、どこで、誰が、何を、どのように)の確認とまとめを行い、個別指導計画に反映する。

◆ 単一の障害種に対応する都立特別支援学校の場合は、学校間連携を想定した内容で研修を進めます。